

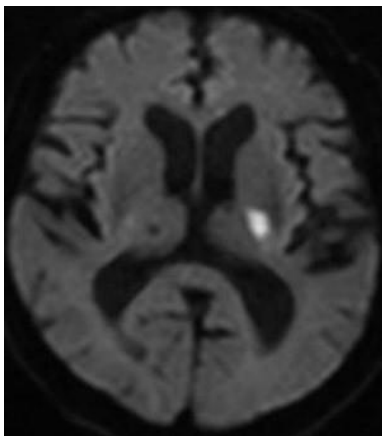
# 脳梗塞の予防について

脳血管治療センター 脳血管内治療専門医 中村 卓也  
脳神経外科専門医



こんにちは。朝晩がずいぶん寒くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、薬物治療の観点から脳梗塞の予防についてお話しさせていただきます。

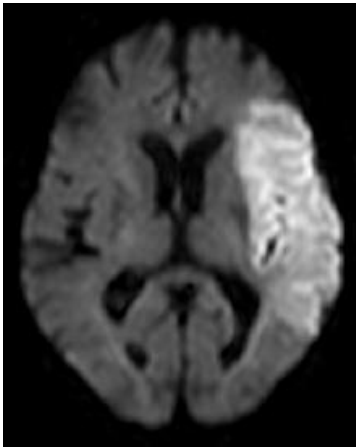
脳梗塞とは「血管が狭くなったり詰まったりすることで脳へ酸素とエネルギーが十分に供給されないことで脳の障害が起こるもの」であるといえます。主なメカニズムとして、①血栓性脳梗塞：動脈硬化が原因となり、脳の動脈がだんだん狭くなり、そこに血栓（血のかたまり）ができ、最終的に血管が詰まって脳梗塞が起こるもの。②塞栓性脳梗塞：心臓や頸部血管等、血液が頭に至る手前の血管に出来た血栓などの塞栓源が血流に乗って脳へ飛んで行き、血管が詰まって起こるもの。に分けられます。



① 血栓性脳梗塞によってできる脳梗塞の写真です。

手足の麻痺や呂律障害を起こします。

脳血管は動脈硬化性の変化があることが多いです。



② 塞栓性脳梗塞によってできる脳梗塞の写真です。  
脳の太い血管が詰まっています。脳梗塞の範囲も大きく、重症になることが多いです。

どちらも脳梗塞の予防としては血液をサラサラにする薬を使います。

①は抗血小板剤(代表的なものとして、バイアスピリン、クロピドグレル、シロスタゾールといった名前の薬があります。)②は抗凝固剤(代表的なものとして、ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナなどといった名前の薬があります。)です。ワーファリンに関しては、定期的な血液検査が必要であり、納豆や青汁を食べることができません。他の薬に関しては、薬価は少し上がりますが、定期的な血液検査は必要なく、食事制限も特にはありません。①②の薬は、作用は違いますが、ともに血液をサラサラにする作用があり脳梗塞の予防効果があります。

これらの薬は、全身の血液をサラサラにしますので、注意することとしては出血が止まりにくくなってしまふ、という副作用があります。指を切ってしまった時の出血や鼻血に関しては、押さえれば止まりますので、多くの場合は問題ないですが、問題は、押さえることができないところから出血してしまった場合(頭蓋内出血、消化管出血による血便や貧血、尿路出血による血尿)は、専門の先生の診察、治療が必要になります。場合に

よっては薬を休薬しなければならぬ場合がありますが、あまり薬を止めている期間が長いと、脳梗塞のリスクが上がってしまいますので、自己判断による休薬はせずに、必ず、かかりつけ医を受診していただきますようお願いいたします。

また、これらの薬を飲んでいても、残念ながら脳梗塞を再発してしまふことがあります。例えば抗凝固薬については、今まで様々な試験が行われており、脳梗塞の発生頻度は年間1-2%まで抑えられてきていますが、逆に言うと、薬を正しく飲んでいても、年間1-2%の確率で脳梗塞を再発してしまいます。手足が動かしにくい、言葉が出にくいなどの脳卒中を疑う症状がありましたら早めの受診をお願いいたします。

最後になりますが、たびたび外来で、患者さんから、薬はいつまで飲めばよいのか、と聞かれることがあります。年齢や状況によって異なりますので一概には言えませんが、基本的には永年内服していただくことになると思います。毎日決められた時間に薬を飲むことを、永年続けるというのは非常に大変であり、薬を出すこちらとしても心苦しく思います。しかしながら、脳卒中で傷んでしまった脳は元には戻らず、場合によっては重篤な後遺症が残ってしまうこともあります。是非ともご理解ご協力のほどを、よろしくお願いいたします。

また、このようなお薬を飲んでいることは、他の医療機関にかかるときは是非、伝えておきましょう。